

なし「にっこり」のジョイント栽培における定植苗木 の新梢伸長促進技術の検証

要約

なしジョイント栽培における定植苗木は、支柱を使った新梢の直立誘引とGA処理3回を組み合わせることで、樹体間接続が可能な新梢長を確保することができる。

○ 展示のねらい

管内では、なしジョイント栽培が6戸で導入され、改植等に伴い増加傾向にある。育苗技術の確立並びに早期樹形完成を図るため、定植苗木における新梢伸長促進技術の効果を明らかにし、樹体間接続が可能な苗木長 3.3m以上を確保する。

区名	支柱誘引	GA処理 ^{注1}	主枝新梢数 ^{注2}
供試区1	有り	3回	2本残し
供試区2	有り	3回	1本のみ
供試区3	有り	1回(6月)	2本残し
供試区4	有り	1回(6月)	1本のみ
対照区	無し	無し	1本のみ

注1 ジベレリン塗布剤は、4月25日、6月5日、7月14日に頂芽基部へ塗布した。

注2 主枝新梢数は、展葉初期に不要な新梢を摘心し、2本又は1本とした。

注3 栽植密度は、列間3.6m*株間約1.4m植えとした。



定植後の様子

○ 主な成果

新梢長は、供試区1 > 供試区2 > 供試区3 > 供試区4 > 対照区の順に長くなり、新梢を支柱誘引し、GA処理3回を組み合わせることで、目標の苗木長 3.3m以上を達成することができた。また、主枝新梢数を比較すると、2本残した方が新梢伸長効果は高かった。

樹体間接続率は、供試区1と供試区2で80%と高かった。また、新梢長が長いほど主枝誘引(整枝剪定)時の折損率が高い傾向にあり、主枝折損に備えて、主枝新梢を2本残して育成しておくことが有効であった。

区名	新梢長 cm	全長(苗木長+新梢長) cm	樹体間接続率%	主枝誘引時折損率%
供試区1	253(144)	360(132)	80	20
供試区2	246(140)	352(129)	80	20
供試区3	190(108)	306(112)	30	0
供試区4	180(102)	286(105)	10	10
対照区	176	273	10	0

注1 ()は対照区との比率。

○ 今後の方向性

普及を図る上では、GA処理によって新梢停止期が遅れるため、生育後半のサビダニ類に対する薬剤防除の徹底が重要である。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：佐野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315